



を取り合った。独自判断で、商品名は箱の右上にまとめて記載し、楽に見分けられる工夫を始めた社もある。

圧縮

物流業界は低賃金や高齢化に加え、納品先での検品作業などで運転手にかかる負担が重い。

IT企業のYEデジタルは、運転手の負担を軽減するサービス「ミルフィー」を開

発。畜産農家が飼料を保存するタンク内にセンサーを取り付け、パソコンなどで餌の残



トラックの荷台に並べられたダンカーゴ(下)。上に別の荷物を段積みできる(画像の一部を加工しています)

量を簡単に確認できる。

残量は運転手側が確認することが多く、不足に気付いた農家が予定外の注文を出した。

て、配送会社が振り回されることも。このサービスを使うと注文が計画通りになり、「月間走行距離を3分の2に圧縮した会社もあります」(同社担当者)。

積載増

アルミ製品製造のエーディ

当者)

エフ(大阪市)は、車に多くの荷物を積み込める物流ボックス「ダンカーゴ」を開発した。アルミと樹脂製のパネルを組み立てて箱の形にし、食品や部品などの荷物を入れてトラックへ。上に別の荷物を段積みしても荷崩れや破損を起さないため、積載量が増加。「この1年間で売り上げは約2倍に伸びました」(担

2024年尚残 配送遅延で市民生活が影響を受ける恐れがあり、政府・業界の対応が課題だ。